

【解答例】

I

- (1) 歴史は次々に生じる具体的な細々としたことに焦点を当てながら特定のものごとを表現する一方で、詩は偶然の介入を許すことなく、普遍的なことに光を当てることができるのである。このように詩は正当化されている。
- (2) 「ノンフィクションを読むとき、私たちは警戒しながら読む。私たちは批判的で懐疑的になる。しかし物語に没頭しているとき、私たちは知的な警戒を解く。私たちは感情を揺さぶられ、それによってゴムのように柔軟になり形を変えられやすくなるように思われる。」
- (3) ビジネスパーソンや弁護士は他人の気持ちを瞬時に理解し、それに基づいて行動し、商取引を成功させたり、裁判に勝ったりすることができる。その結果、おそらく相手方は苦しみを覚えたり、敗北感を味わったりすることになるだろう。それとは逆に、本ばかり読んで内向的な人で、他人の感情を推し量るのが得意ではない、あるいは得意だとしても他人について理解したことに基づいて行動する能力の欠けている人間を、私たちはみな知っている。

II

- (1) 『種の起源』が、ヨーロッパ人の精神を長きにわたって支配してきて、依然として支配している世界についての 2 つの有力な思考法のうち的一方と相容れず、もう一方に調和した著作であるということ。
- (2) 古代ギリシャにおける科学の誕生からその後続くすべての時代を通して思想史を追ってみると、ある真理がはっきりと見えているというよりもむしろそれを直観的に感知しただけと言えるかもしれないものが絶え間なく何度も繰り返し示されてきたのを目にするだろう。その真理とは、すべての多種多様な生物は共通の起源から発展したものにすぎず、すべての複雑な形態はその前に存在していたより単純な形態から進化したものだということである。
- (3) そして自然選択説に有利な証拠あるいは不利な証拠を評価する能力が完全に欠けている人間が驚くほど簡単にそして熱心にその説を受け入れたり、あるいはそれを「論駁」したりしたことは、この 2 つの思考法の存在によって説明される。他に説明のしようがないのである。生物学の基本的な知識が欠けていても、彼らがこの問いについて強い自信をもって意見を述べるのをやめることはなかった。そして彼らは同じくらい予備知識が欠如したまま、たとえば天文学の仮説を攻撃するのかと生物学者たちは軽蔑の気持ちを持って問うてきた。もちろん攻撃するだろう。

Ⅲ

Needless to say, it is important to take precautions to avoid a mistake. Sometimes, however, it is also necessary to take a brave step forward without worrying too much about the consequences. You might have a bitter experience, but by repeating mistakes you can often become more mature as a person. The experience of rising up every time you fail instead of giving up will surely give you the strength to overcome an extreme hardship you might face someday.

Ⅳ

- (1) it was different from what you normally eat at other restaurants (11 words)
- (2) you got your hopes too high because it was a new restaurant (12 words)
- (3) if we happen to talk to a stranger on the train, we might immediately make a negative judgment about that person based on the short conversation we have
(28 words)
- (4) go to the place again and try something else (9 words)